令和５年　１２月定例会　賛成討論（１２月２５日）　　自民党　青山聖子

私は、自由民主党川口市議会議員団を代表して、ただいまの委員長報告どおり決することに賛成の立場から、以下、討論を行います。

議案第 104 号「令和 5 年度川口市一般会計補正予算（第４号）」のうち、第 4 表「債務負担行為」における「美術館建設工事費」及び「総合文化センター改修工事費」、及び議案第 106 号「令和 5 年度川口駅西口地下公共駐車場事業特別会計補正予算（第１号）」につきましては、美術館建設工事費として５２億 1829 万円、総合文化センター改修工事費として１５８億９335 万円、西口地下公共駐車場改修工事費として 4 億 8136 万円をそれぞれ限度額とし、令和 5 年度から令和 7 年度までの期間で計上されております。リリア大規模改修と美術館建設、そして建設後約３０年が経過し、かねてから施設更新を予定していた西口地下公共駐車場との工事を一体化して行うことにより、工期を短縮し、市民生活の利便性の妨げとならぬよう、また、駐車場使用料など歳入の減少を最小限にするためのものと理解するところです。

まず、美術館建設費の上昇について申し上げます。建築資材や労務単価の高騰が主な要因としても、6 月定例会で提示された 42 億円から数か月で１０億円近くアップしていることに対し、今後の建設費上昇を懸念する声がございま

す。決して小さくない上昇幅であることは共通認識ですが、この美術館建設費について、具体的な金額が最初に取り上げられたのは、令和２年６月定例会、20 億円という数字が提示されたと記憶しています。私は、過ぎたものを持ち出しご批判申し上げる心づもりはございませんが、この２０億円というのは、川口市美術館建設基本構想基本計画審議会において、「建設場所やその他条件に不確定要素が多い」という前置きのもと、今後も建設費用は変動する可能性があることを前提としたうえで、「参考程度に」ということで、お示しされた数字でした。栄町３丁目とリリア西側では、建設手法も面積要件も大きく異なります。参考額として不確定要素が多いなか、出された数字が、いつのまにか独り歩きをしてきた。そして、そこを基準に大幅上昇だ、中身が不透明だという、これまでの議論の展開には大きな違和感を覚えてまいりました。設置場所が変更される過程においても、パブリックコメントを実施しながら、美術館建設基本計画を改定し、それに基づいた実施設計等委託料が令和５年度当初予算において賛成多数で可決されております。リリアの休館もすでに決まっています。正当な審議と議決を経て決定した内容については、議会人として是非、尊重する姿勢を持っていただきたいと切に願うところです。

今回、リリア大規模改修と美術館建設を一体化事業としてみたとき、令和５年６月定例会での基本設計時には、リリア改修の概算工事費は 168 億円だっ

たものが、今回は１５９億円と９億円近く縮減されています。美術館建設費としては上昇しているものの、事業全体と俯瞰すると約１億円の増額で済んでおり、これは今回本市が新たに取り入れたＥＣＩ方式や、施工内容の適合性を精査するコンストラクションマネジメントの効果の一つであると考えます。

　さらに、懸念材料として挙げる方もおられる川口駅西口地下公共駐車場の上に美術館を建設するという施工方法ですが、この土盛り重量についても、この度の精査により、当初見込みの１万５，０００トンから７，６５８トンへと、質と安全性を確保しながらおよそ半分にまで重量を削減し、コスト抑制に努めるとともに、一体的な工事により、足場など共通の仮設費が２億円程度削減されておりますので、そういったこともあわせて申し添えておきます。

　さて、昨今のインフレの折、円安による資材価格の長期的な高騰や、慢性的な労働力不足が続いています。来年４月からはいわゆる「建設業界の働き方改革」＝週休２日の徹底や残業時間の規制、時間外労働に対する割増賃金の引き上げなどが罰則付きでスタートします。今後さらに労務環境はひっ迫し、建築コストは上昇一辺倒となることが予測されます。今、契約締結に至らなければ、工期の遅れだけでなく、さらなる建設費用の増額、ひいては事業機会の逸失にも直結しかねません。

さらに、足元では、長期金利が１％近くまで上昇しており、その影響が住宅ローンの固定金利にも反映され始めています。今回の３つの工事費では、概ね9割が地方債により賄われる予定です。現在の金利の上昇局面を念頭に置くと、地方債いわゆる借入金も、今後、市中金利に連動して適用利率が引き上がるでしょうから、起債するのであれば低金利の今、少しでも早い方が良いと考えるのは自然なことでしょう。地方債については、そうは言っても利子分の償還等、将来世代へ借金を残すなとの見方をされる方もございます。しかし、現在の市民と未来の市民、つまりこれから川口を選んで住んでくださる方との世代間の、税負担の公平性を確保できる機能が地方債であることを考慮すると、起債という選択は適正なものと考えます。

他方、川口市中期財政計画では、財源の根幹をなす市税収入は、今後も堅調に推移することが見込まれています。美術館建設が、今時期尚早であるというならば、一体いつ、どんな条件が整えば最適解なのか、私にはまったく計りかねるところです。

次にランニングコストなど維持費について申し上げます。今定例会では一般質問等のなかで、他市の同規模美術館でのランニングコストは、年間約2.5億円程度という一定の参考値が示されるとともに、公立の市立美術館で黒字収支を出しているところはないとのことでした。公立美術館は、文化芸術を蓄積

し、次世代に継承するための組織であり装置です。継承するには息の長い取り組みと目先の利益にとらわれない長期的な展望が欠かせません。お金がすべて、儲けてなんぼならば、商業的に成熟したアニメやゲーム、映画の人気に便乗する方が早いのです。しかし、公立美術館は、本質的に市場原理や採算性と相容れる性質のものではありません。民間企業にはできない事業こそ公立美術館が担う役割であり、これを無駄な経費だ、負の遺産だと切り捨てるならば、それは公立美術館が自らの存在意義を放棄するも同然なのです。

　だからといって、旧態依然とした施設では新設する意味がありません。学校との連携はもとより、インクルーシブな機能をも包摂するという方針は素晴らしいものです。

　現在、多くの公立美術館では子供向けの教育プログラムを展開し次世代の育成にも取り組んでいますが、効率性や収益性を考えれば、これは本来まったくもとの取れないものです。さらに申し上げるならば、美術館・博物館にしても、昨今は小さな子供を連れて行けるような時間的・経済的・精神的余裕のある親御さんばかりではありません。こうした文化施設にアクセスすること自体、すでに親の代からの蓄積がないとできないような文化資本の格差というのは、今、確かに存在しています。美術を鑑賞する楽しさを知る、美術館に親しみを持つ、そうした一朝一夕には育たない心の豊かさ＝文化資本を子供たちの

なかに醸成するには長い年月が必要なのです。こうした観点からも、一刻も早い事業着手を望むものです。

　新たな美術館には、その好立地を活かし、リリアを中心とした文化施設の集積を図ることで、周辺商業施設を巻き込んだ賑わいの相乗効果を期待するものです。さらには、博物館法に位置付けられた機能のみならず、都市デザインやまちづくりの文脈においても、交流人口の拡大や、芸術と産業のイノベーションが生まれる結節点、交差点としての役割、そして福祉分野との連携など、市民生活に開かれた新しい価値観をもった施設になることを心からご期待申し上げるとともに、速やかな事業実施を望むものとして賛成いたします。

　その他の補正予算案、一般議案及び契約議案等の諸議案についても、すべて適正なものと判断し、私の賛成討論といたします。ご清聴ありがとうございました。